

令和7年度 第1回「地域連携担当者」新任研修 開催報告

- 1 趣旨 生涯学習・社会教育の専門的知識の習得ならびにコーディネート能力の向上を図るなど、社会に開かれた教育課程を実現する上で学校と地域を結ぶ指導的役割を担う教職員の資質向上を図る。
- 2 主催 滋賀県教育委員会
- 3 対象 市町立小学校・中学校・義務教育学校、県立中学校・高等学校・特別支援学校において、「地域連携担当者」の校務分掌に新たに位置付けられた教職員、またはそれに準ずる者
- 4 日時 令和7年5月20日（火） 13:30～16:30
- 5 会場 滋賀県庁東館7階大会議室（大津市京町四丁目1番1号）
オンライン（Zoom）併用による開催
- 6 内容
 - (1) 開講式
 - (2) 研修の概要説明
 - (3) 講話
表題：「地域連携担当者に期待すること」
講師：北辺 禎雄 氏（滋賀県CSアドバイザー）
 - (4) 講演
演題：「テーマ型コミュニティ・スクールの推進とその未来」
～産官学協働協働による社会に開かれた教育活動の実践より～
講師：大門 和喜 氏
(文部科学省CSマイスター、千早赤阪村教育委員会教育長、大阪府立富田林中学校 元校長、大阪府立富田林高等学校 元准校長)
 - (5) 「しが学校支援センター」の紹介
 - (6) 感想交流
 - (7) 諸連絡・アンケート等
- 7 参加者数 127名（来場22名、オンライン105名）



8 講話の概要

今の社会は、少子高齢化やAIの進化などにより大きく変化している。将来、子どもたちの多くが今はまだ存在しない仕事に就くと予想されており、自分で考えて行動できる力がますます必要となっている。そのような時代に対応するために、学校だけでなく、地域や保護者など社会総がかりで教育を進めることが大切である。

学校と地域がともに子どもを育てていく「社会に開かれた教育課程」のポイントとして、「より良い社会を目指すために学校と社会が目標を共有すること」「子どもたちに必要な力を明らかにして育てること」「地域と協力して教育を実現すること」の三つを示していただいた。

また、「社会に開かれた教育課程」を推進する仕組みとして「コミュニティ・スクール」や「地域学校協働活動」についての説明や、学校における地域連携担当者としての役割や期待することについて御講話いただいた。

「子どもが一人育つには、一つの村が必要だ」というアフリカのことわざをもとに、子どもの育ちは学校だけでなく、地域全体の支えによって実現することを教えていただいた。

9 講演の概要

コミュニティ・スクールが抱える課題に対し、次代に向けた新たなコミュニティ・スクールの形「テーマ型コミュニティ・スクール」を提案いただいた。

グローバルリーダー（グローバルとローカルを掛け合わせた造語）を育むためには、従来のコミュニティの考え方を広げ、目指したいテーマ（子ども像）を産官学協働で共有して実践していくことが重要となる。テーマを共有し合う関係性をコミュニティと捉え、地域や社会的立場にとらわれることなく教育活動を展開することにより子どもへのアプローチの幅が格段に広がる。

活動促進のキーパーソンを学校運営協議会の委員として、当事者意識のある活動が地域学校協働活動の具体的な展開へとつながる。テーマ型コミュニティ・スクールの成熟が、学校には教員の負担軽減や社会人としてのスキルアップ、子どもには活躍の場の拡幅や自己成長、地域関係者にとっては、自己有用感の向上ややりがい、企業にとっては社会に対するアピールにつながるなど、与益者と受益者がそれぞれメリットを享受することができる。

アントレプレナーシップ（起業家精神）提案型探究の実践紹介を通して、コミュニティ・スクールの新たな可能性やこれからの展望を示していただいた。

10 参加者のアンケートより

《講話について》

- 変化の激しい社会に対して、子どもたちにどんな力をつけていくとよいかを地域と共有して育ていく体制を作る必要があるなど思いました。
- 『社会に開かれた教育課程』の三つのポイントを簡潔に教えていただき、わかりやすかったです。学校と地域が同じ目的を共有し、同じ方向を目指せるようにしていきたいです。
- 「子どもが一人育つには、一つの村が必要だ」というアフリカのことわざのお話が心に残りました。多くの人との豊かな関わりを通して、子どもの豊かな心が育つことを、改めて学びました。
- 学校現場は、忙しさを増していたり、さまざまな課題が山積したりしていますが、そのような観点からも地域全体で子どもを支えていくことが不可欠となっているということ。そのために地域と学校を繋いでいく役割を担っていくことが大切だと思いました。
- 学校は、地域からの要望を受ける受動的な位置づけのように思っていたが、地域とともに教育を考える主体的な存在でもあると理解できました。

《講演について》

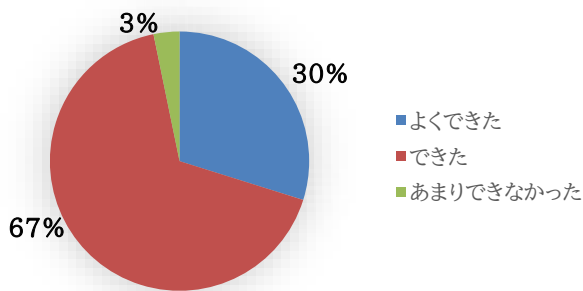
- 「テーマ型コミュニティ・スクール」という新しい考えを知り、目からうろこの考え方だった。コミュニティをさらに大きな枠組みとしてとらえ、学校が子どもたちを通して求める人材や企業をコミュニティ・スクールの枠組みとして活用できるよう探したり、求めたりしていくことが大切だと感じました。
- 「志を同じくする意味でのコミュニティ」という視点も含めてコミュニティ・スクールについて考えるということも教えていただけました。
- テーマ型コミュニティ・スクールの魅力について新しいスタイルを模索するという点に目を開かされました。また、地域連携担当者としての仕事を進めることで働き方改革にもつながるという点も、地域連携がこれからの新しい仕事になることを深く実感できました。
- 小さな一歩から始められたと思うのですが、それがスケールの大きな仕組みや成果につながることを学ぶことができました。子ども、教員、地域、企業、役所等関わる方がwin-winになるコミュニティ・スクールの道のりが聞け、とても勉強になりました。

○実際に企業の方に協力していただきながら学習することで、自分の進路や将来の仕事について考えるとてもよい機会だと思いました。本校では、協力的な地域の方々が多いので、キャリア教育などにも活かしていくことができるとよいと思いました。

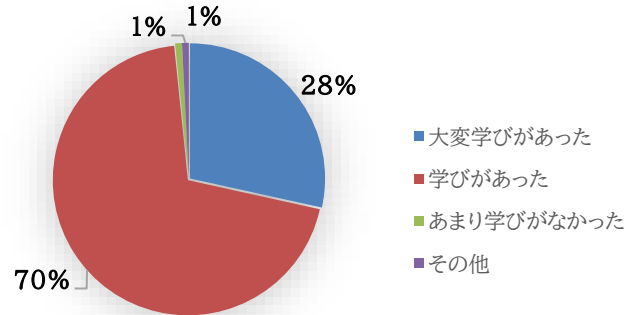
《「しが学校支援センター(学校支援メニュー)」について》

- 本校が4月に行った安全教室が、学校支援メニューを活用したものだとなりました。多様な学校支援メニューがあることを知ることができたので、今後、本校のニーズに合った支援メニューを探し、活用してみたいです。
- より良い体験活動や講師を探すことに苦労することが多かったので、是非ともおねつを活用させていただきたいです。子どもたちにとって、本物と触れ合うことは、教育効果が高いと思います。
- 学校支援センターの存在は知っていたが、その利用方法や内容についてはよく分かっていなかったのので、今回説明いただき活用方法がよく分かりました。先生方に紹介していきたいと思います。
- 「におねつ」を使い、支援者の方に学校に来てもらうことで、専門的な話を聞くことができ、学びを深めることができることを知りました。職業に関する講話やマナー講座は、高校生も関心が高い内容であり、積極的に将来について考える機会を設けることができるのではないかと思います。

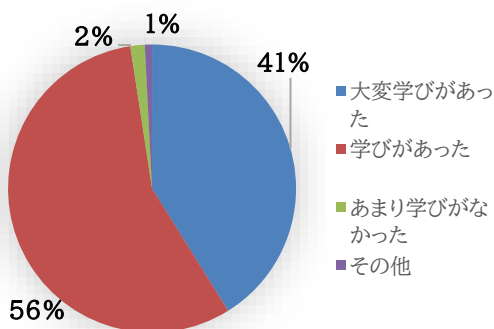
「地域連携担当者」としての役割について理解を深めることができましたか。



北辺先生の御講話はいかがでしたか。



大門先生の御講演はいかがでしたか。



「しが学校支援センター」について、理解を深めることができましたか。

